令和５年度東京都立江北高等学校学校経営計画報告

東京都立江北高等学校長
江 本 敏 男

１　今年度の取組と自己評価

（１）教育活動への取組と自己評価

【学習指導】　質の高い授業を実践し、全ての生徒に進学に向けた学力の定着を図る。

目標と方策	自己評価
①　主体的・対話的な深い学びを推進し、新しく求められる学力の向上を図る。	①　学力向上委員会（教科主任会）を定期的に開催し、組織的、計画的な学習指導を推進した。
②　生徒が表現する場面を増やす授業を展開する。	②　ペアワーク、グループワークを活用し、自己表現や他者理解を深める授業を展開した。
③　自学自習の習慣や計画的な学習習慣を身に付けさせ、確実な学力の向上を図る。	③　自習室の利用は定着した。自学自習の習慣や計画的な学習習慣を身に付けさせた。
④　習熟度別授業、少人数授業、特別進学クラス編成等による生徒の理解度に応じた授業を行い、学力向上に向けた学習指導の充実を推進する。	④　１・２学年での英語・数学の習熟度別授業、各学年２クラスの特別進学クラス編成、補習・講習の実施により、学習指導の充実を推進した。
⑤　模擬試験結果や生徒による授業評価の分析に基づく授業改善を推進する。	⑤　模試分析、共通テスト分析を各教科で行い、共有した。授業評価アンケートの質問項目の見直しを行い、授業改善につなげた。
⑥　学力の定着を図るため、授業時数の確保を推進する。	⑥　行事等の見直しを行い、授業時数を確保した。
⑦　英語に求められる４技能のバランス良い向上を図り、実践的コミュニケーション能力を高め、資格取得の充実を図る。	⑦　１学年はオンライン英会話授業を年間 10 回実施した。その他、ＧＴＥＣの全員受験に加え、年３回実用英語検定の希望者受験を実施し、資格取得の充実を図った。
⑧　オンライン授業やＩＣＴを活用した授業の効果的な実践を推進する。	⑧　オンライン学習デーを実施し、効果的な実践ができた。成果と課題を共有した。

【進路指導】　最後まであきらめさせない進路指導の充実を図る。

目標と方策	自己評価
①　進学指導推進校として、生徒の進路実現を図るキャリア教育の充実を進め、最後まであきらめない進路指導の徹底を図り、国公立大学や難関私立大学への進学実績の向上を図る。	①　生徒の意識を高め、３年間を見とおした継続的な指導となるよう、進路部が主導して組織的な指導を行った。国公立大学や難関私立大学への進学が向上した。
②　進路部と学年担任とが連携し、的確な進路情報の提供、生徒の学力分析、面談の実施、講演会や進路体験等の進路行事の充実を推進し、生徒の進路意識の喚起を図る。	②　進路部と学年が連携し、計画的な進路行事、保護者説明会等を実施した。３学年出願ケース会議を行い、進路選択の幅を広げた。
③　生徒の客観的な学力分析や進学希望に基づき、長期休業日中の講習等の進学に向けた指導を組織的・計画的に行う。	③　３学年の夏期講習を全教員が担当し、58 講座開講した。
④　模擬試験等のケース会議の拡充を図り、生徒個々の状況を丁寧に分析する。また、大学入学共通テスト後の出願指導の充実を図る。	④　出願ケース会議等により生徒個々の状況把握を丁寧に行った。共通テスト後も諦めさせない出願指導を行った。
⑤　国公立大学進路希望者への指導の充実を図る。	⑤　日頃から国公立大学受験を意識した授業を行った。国公立大学進学希望者を対象とした集会を定期的に実施し、効果を上げた。

【生活指導】　規律ある学校生活の向上を図る。

目標と方策	自己評価
①　規範意識を高め、集団生活におけるルール、マナー、モラルを身に付けさせ、自律的な生活態度とお互いを尊重する態度を育成するとともに、自分で判断し決定して実行する自己指導能力の育成を図る。	①　生徒会、運動・学芸委員会などの生徒組織を機能させ、自律的な生活態度とお互いを尊重する態度の育成を図った。
②　遅刻防止、授業開始時間や下校時間の遵守、授業規律の徹底、時と場に応じた身だしなみや青札の励行など「時を守り、場を清め、礼を正す」指導を徹底し、規律ある安全な生活の充実を図る。	②　年間遅刻延べ回数は目標値を達成できなかった。組織的な遅刻指導を実施するとともに朝学習の目的を理解させ、取り組みを習慣化させる指導を実施する。身だしなみ指導も継続する。
③　いじめ等の未然防止に向け、年間３回のいじめアンケートの充実を図り、組織的かつ迅速な対応ができるよう校内体制を強化する。	③　年３回いじめアンケートの実施、担任との面談をとおして生徒の相談に迅速かつ組織的に対応した。

【特別活動・部活動】　江北高生としての自覚と誇りを育成する。

目標と方策	自己評価
①　部活動・委員会活動を活性化させ、自己を生かす能力を育成する。 ②　学校行事の学校生活の活性化と学校への帰属意識を一層高めるため、学校行事の充実を図るとともに、系統的な年間計画を構築する。 ③　部活動の一層の活性化を図るとともに、学習と部活動との両立を目指し、学校生活の充実と生徒の可能性の伸長を図る。	①　運動・学芸委員会では、生徒が自ら考え、提案する場をつくることで、自主的な活動につなげた。 ②　コロナ禍前と同じではない、新たな学校行事を工夫して作り上げることができた。行事の実施時期も見直すことができた。 ③　担任だけでなく、部活動顧問も学習と部活動の両立を目指す指導を行い、学校生活の充実と生徒の可能性の伸長を図ることができた。

【健康づくり】　体力を向上させ、心の安定を図り、社会の発展に貢献し得る心身共に健康な人間を育成する。

目標と方策	自己評価
①　生徒自らが健康を意識し、自己の健康管理に努めることを通して、進んで健康づくりを実践できる能力を育てる。 ②　計画的な体育の授業等を通じ、基礎体力の向上を図る。 ③　スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実を図り、日頃の生活状況やいじめアンケート等に基づく個々の生徒の状況把握に努め、一人一人に応じたきめ細かい指導を実施する。 ④　生徒と教員の関わりを深め、ＳＯＳを発信しやすい環境の充実を図る。	①　コンディションレポートの利活用週間等を利用し、自己の健康管理を実践させた。 ②　充実した体育施設を生かし、運動量を確保した体育の授業を通じて基礎体力の向上を図った。 ③　教育相談委員会による生徒のケース会議、校内研修会での生徒情報の共有を通して個々に応じたきめ細かい指導を実施した。 ④　二者面談、三者面談により生徒の状況把握に努めた。

【募集・広報活動】　地域に信頼され支えられる活気ある学校づくりを推進する。

目標と方策	自己評価
①　学校説明会、見学会、授業公開、中学校訪問、塾訪問などを一層充実させ、本校で意欲的な活動を希望する生徒を積極的に募集する。 ②　充実した学校案内の作成、ホームページの更新、外部説明会への参加など、広報活動を積極的に進め、本校の諸活動への理解を広めていく。 ③　本校の教育活動や成果を積極的に発信し、地域からの理解を深めていく。	①　学校説明会参加者数は目標値を上回った。学校説明会等では学校のコンセプトを明確に示し、本校で意欲的に活動したい生徒を募集することができた。 ②　学校案内を６月には中学校に配布したり、部活動の様子等をホームページに掲載したりして情報の発信に努めた。 ③　江北だよりを年 12 回発行し、保護者、地域に向けて学校の取組を発信した。また、江北だよりに学校のホームページの QR コードを掲載する工夫をした。

【学校経営・組織体制】　伝統の上に新しい江北高校を作り上げる組織の強化を図る。

目標と方策	自己評価
①　全教職員が学校改革への意識を高め共有することで、改革を推進する。	①　全教職員で学校のミッションを認識し、組織的な対応を行い、学校改革を推進させた。
②　管理運営規程に基づく組織的な学校運営を行い、企画調整会議を中心とした組織的学校経営を推進し、校務分掌内の協働体制を一層充実させ、校務の円滑な運営と諸課題の解決を図っていく。	②　企画調整会議を中心とした学校経営を行い管理運営規程に基づく学校運営を徹底し、組織的な業務遂行と学校運営を進め、諸課題に組織的に対応した。校内分掌内の協働体制と分掌間の連携を深め、校務運営の活性化を図った。
③　校内研修や啓発活動を通して、教育公務員としての高い使命感・倫理観をもち、服務規律を順守することを徹底する。	③　年間３回の服務事故研修や企画調整会議、職員会議で文書での服務事故防止の周知徹底を図った。
④　経営企画室の学校経営参画を促進し、効率的かつ効果的な学校経営を行う。	④　経営企画室の学校経営参画を促進し、迅速かつ効率的な業務の遂行に取り組んだ。
⑤　会議や業務の効率化を図り、教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する。	⑤　担任と副担任の連携強化や会議の精選により業務の効率化を図った。

（２）重点目標への取組と自己評価

目標と方策	自己評価
①　教科指導において、学習到達度（ねらい）を明確に示し、生徒に見通しをもたせることで、生徒の学習効果を高める。	①　模試分析、授業評価アンケートをとおして学習到達度を明確に示し、見通しをもたせる授業改善を行った。
②　生徒が考え、提示する機会を増やし、思考力、表現力等の向上を図る。	②　学習のねらいや振り返りを確実に行い、生徒が見通しをもって授業に取組めるよう授業改善を行った。
③　朝学習の着実な定着や手帳の活用を図り、自己管理能力の向上を図る。	③　朝学習は定着しており、学力向上につながった。遅刻者も一定数いるので朝学習を利用した生活習慣の改善を図らせる。手帳の活用の指導は継続が必要である。
④　英語外部検定試験等を活用し、ＣＥＦＲ　Ａ2.2 到達者率の向上を図る。	④　英語検定試験２級に 150 人以上が合格した。
⑤　ＩＣＴ化の更なる推進を図り、環境の効率化を向上させるとともに、オンライン学習の実践を推進し、効果的な活用方法を構築する。	⑤　オンライン学習デーを効果的に実施した。講習の動画配信も行い、様々な学習方法を生徒に提供した。
⑥　「総合的な探究の時間」の充実を図る。	⑥　教務部、進路部と学年が連携し、取組の充実を図った。
⑦　読書活動の充実を図り、生徒の思考力・判断力・表現力の基礎を育成する。	⑦　生徒の思考力・判断力・表現力の基礎を育成するために読書活動の推進が必要である。
⑧　進路部所掌の教科主任会を実施し、データに基づく組織的な指導体制を強化する。	⑧　学力向上委員会（教科主任会）や模試分析会を定期開催し、データに基づく組織的な進路指導を行った結果、国公立大学、難関私立大学合格者数の増加につながった。
⑨　長期休業中の講習等の構造化を図り、生徒に	⑨　全教員で３学年の夏期講習を担当する取組

とって効果的な指導体制を強化する。	は定着した。今後は講座内容の充実を図る。
⑩　自習室の学習環境を向上させ、自習室利用の拡充により、家庭学習時間の増加を図り、自学自習の習慣の定着を推進する。	⑩　自習室の赤本を充実させたり、過去問にアクセスできるＱＲコードを掲示したりして大学受験を意識させる環境づくりを行った。自習室利用は定着し、自学自習の習慣が身に付いた。
⑪　模擬試験結果に基づく分析会を充実させるとともに、３学年では、個別のケース会議（２回）、出願ケース会議を実施し、個々の生徒の状況を共通理解し個に応じたきめ細かな指導を行う。	⑪　模試分析を各教科で行った。分析会も定期的に実施し、担任以外の授業担当者も出席した。ケース会議も実施し、個に応じたきめ細かな指導を行った。
⑫　３学年では、３者面談を２回以上実施し、進路実現に向けた指導の充実を図る。	⑫　３者面談、２者面談を行い、進路実現に向けてきめ細かな指導を行った。
⑬　遅刻防止指導の徹底を図り、規則正しい学校生活の推進と学習環境の向上を図る。	⑬　特定の生徒が遅刻を繰り返し、延べ人数が昨年度に比べて増えた。指導の継続が必要である。その他の生徒は規則正しい学校生活を送ることができ、学力も向上した。
⑭　あいさつの励行を推進し、活力ある学校生活を構築する。	⑭　生徒部による朝の立ち番指導等により、自らあいさつを行う生徒が増えた。
⑮　授業開始時、終了時の「礼」、チャイム着席、チャイム授業開始の徹底を図り授業規律を確保する。	⑮　授業開始時、終了時の「礼」、チャイム着席、チャイム授業開始が徹底され、授業規律が確保されている。
⑯　交通ルールやマナーの指導の徹底を図り、生徒の安全を確保する。	⑯　交通安全教室や「輪トレ」等を実施し、交通安全に対する意識を高めさせた。
⑰　清掃活動を徹底し、自ら学ぶ場所を整える態度を養う。	⑰　日常的に清掃活動を実施し、自ら学ぶ場所の環境整備に努めるよう指導している。
⑱　都大会上位進出を目指し、部活動の活性化を図る。	⑱　都大会に出場した経験が部活動の活性化につながっている。高い目標をもたせた指導を継続していく。
⑲　スクールカウンセラー、特別支援コーディネーター等と関係部署の連携を深め、個に応じた適切な指導の充実を図る。	⑲　定期的にスクールカウンセラー、特別支援コーディネーター等と関係部署が打ち合わせを行い、生徒の情報を共有した。個に応じた適切な指導につなげることができた。
⑳　学校案内、学校紹介ビデオ、ホームページ等外部発信媒体の充実と学校見学会、学校説明会等の拡充を図り、中学生・保護者の理解の向上を推進する。	⑳　学校説明会参加者数は前年度を上回り、本校に対する理解を深めさせることができた。募集活動の一層の充実を図るために、新たな取組を加えることを検討していく。
㉑　体罰や暴言のない指導、服務事故根絶の徹底を推進する。	㉑　服務事故防止研修や職員会議等を通じて体罰や暴言のない指導、服務事故根絶を指導した。
㉒　週に一度以上の定時退庁の実施等によりライフ・ワーク・バランスを推進する。	㉒　ライフ・ワーク・バランスの推進に課題が残る。超過勤務が常態化しないよう

（３）数値目標

数値目標	令和５年度	令和４年度
①　生徒の家庭学習時間 ３年生：240 分、２年生：150 分、１年生：120 分	３年生：240 分 ２年生：86 分 １年生：108 分	３年生：240 分 ２年生：84 分 １年生：112 分
②大学入学共通テスト受験者率　95％	91％	89％
③大学入学共通テスト５教科受験　50 人	36 人	31 人
④大学入学共通テスト 80％得点者　10 人	０人	０人
⑤国公立大学の現役合格者　20 人	25 人	12 人
⑥難関私立大学（４校）現役合格者　10 人	８人	５人
⑦ホームページ更新回数　300 回	276 回	344 回
⑧　入学者選抜応募倍率　1.7 倍	1.53 倍	1.9 倍

２　次年度以降の課題と対応策

課題	対応策
①　生徒一人１台端末の導入による授業における活用方法	①　日常的な実践を教科会等で共有する。オンライン学習デーを効果的に実施する。
②　観点別評価による授業評価の在り方や成績管理	②　教務部が中心となり、校内研修会を計画し全教職員が共通理解の下に取り組む。
③　総合的な探究の時間の３年間を見通した年間指導計画の作成	③　進路部、教務部と学年が連携し、生徒の実態に合った指導計画を作成する。
④　自主学習室の利用率の一層の向上	④　毎日部活動が終わった後に利用する指導を行う。
⑤　進路部と各学年の連携強化による、３年間の系統的な進路指導計画の充実	⑤　進路部を中心として進路ガイダンス、模試分析会、ケース会議等を組織的に行う体制を継続し、定着させる。
⑥　自転車における交通ルールやマナーの徹底による交通事故防止	⑥　生徒部が中心となり、集会やＨＲを通して全教職員で生徒の意識啓発に努める。
⑦　社会の状況や気候等に応じた柔軟な学校行事の実施	⑦　前例にとらわれることなく、実態に応じて柔軟に対応ができるようにする。
⑧　学校説明会や見学会の一層の工夫	⑧　学校全体で募集活動に取り組む。前例にとらわれることなく新たな試みにも挑戦していく。
⑨　生徒の思考力・判断力・表現力の育成に向けた読書活動の推進	⑨　学校図書館専門員と連携して生徒の図書館利用率の向上を図る。
⑩　学校評価アンケートの回収率の向上と評価における教育活動の改善	⑩　Microsoft Forms による回答の周知徹底とアンケート結果における分析と改善を行う。